

2026

09

第18号



福島県立医科大学 ダイバーシティ推進室

にじいろ通信

夏から秋にかけてダイバーシティ推進室では様々なイベントを行ってまいりました。下半期も同様にイベントを行いますので、ぜひ積極的にご参加ください。

令和8年度ダイバーシティ推進研修会開催

なぜ悪意のない言葉が“攻撃”になるのか —マイクロアグレッションと、日常に埋め込まれた差別を考える

去る7月15日、ダイバーシティ推進員（各所属長）を中心に、「ダイバーシティ推進研修会」をオンラインで開催いたしました。

職場環境の整備と意識改革の促進を目的として毎年開催している本研修会ですが、今回は「マイクロアグレッション」をテーマに、一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）企画業務グループ研究員の朴 利明（ぱく・りみよん）先生にご講演いただきました。

朴先生は在日コリアン3世で、大学在学中に民族差別の問題に取り組む運動に関わったことをきっかけに、差別や人権、とりわけ人種主義やジェンダー／セクシュアリティ規範、それらが交差しながら個々の生に及ぼす影響について研究を重ねておられます。

本研修会では、マイノリティが日常的に経験する、見えにくい差別や抑圧を捉える概念としての「マイクロアグレッション」についてお話いただきました。「マイクロアグレッション」という言葉に、まだ耳慣れない方もいらっしゃるかもしれません。これは、無意識の偏見や固定観念などを背景として、日常の何気ない言動が相手を傷つけたり、疎外感を与えたりすることを指します。多くの場合、発信する側に明確な悪意はありません。しかし、受け手にとっては精神的な負担となり、それが繰り返し積み重なることで、大きなストレスにつながる場合があります。

本学には、多様な背景や立場を持つ教職員・学生が在籍し、附属病院にはさまざまな背景を持つ患者様が来院されます。ある人にとっては何気ない言動であっても、別の人にとっては傷つきや違和感につながる場合があります。今回の研修会では、こうした日常のコミュニケーションに潜む無意識の偏見や差別について理解を深め、互いの多様性を尊重し、より良い関係を築くために、一人ひとりが自身の言動を振り返る機会となりました。

所属長をはじめ、全教職員がこうした意識を持って職務にあたるができるよう、ダイバーシティ推進室では、今後も研修会やさまざまな取り組みを通じて、誰もが互いを尊重できる職場環境づくりを進めてまいります。

今回の研修会には多くの反響が寄せられました。アンケートにお寄せいただいた参加者の感想を、一部ご紹介します。

「平日頃意識していな
いと見過ごしてしま
う。」「見逃さず、救
い上げられるような
人間力を培っていき
たいと思いました。」

「今まで問題として認識していなかった。」「悪意のない言動を認識することは困難なため、その対策も難しい。」「例え良いイメージだとしても、やはり決めつけには危険性があると思った。」

「マイクロアグレッションという単語を初めて知った。」「自分で気づかずに言っていた言葉も事例にあった。」「マジョリティとマイノリティはほとんどの人が同時に持っているものであり、それはいわば個性といえるものと思いました。」

令和8年度キャリアサポート交流会① 開催

福島県医師会との共催にて、今年もキャリアサポート交流会を開催いたしました。今回は、国立大学法人広島大学医学部附属医学教育センター教授の蓮沼直子先生に「ポストコロナ時代のキャリアとは」、本学医学部病態制御薬理医学講座主任教授の下村健寿先生に「ベストセラー書けるかな？」と題して、それぞれご講演いただきました。

蓮沼先生からは、ライフイベントがキャリア形成に大きな影響を与える一方、必ずしも思い通りにいくとは限らないことから、自分自身のキャリアを考えながら、将来を見据えて能力開発を進めていくことの重要性についてお話しいただきました。

下村先生からは、ベストセラーの執筆に必要な「ひらめき」や「創造性」が生まれる脳のメカニズムと、脳を活発にするための仕事や生活の仕方について、わかりやすくお話しいただきました。

講演後には交流会が行われ、講師の先生方と参加者がオードブルやコーヒーを楽しみながら、和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。

キャリア形成において豊富な
ご経験をお持ちの蓮沼先生・
圧倒的話術の持ち主の下村先
生とお話しできる貴重な機会
となりました。



令和8年度 ダイバーシティ推進アンケート実施

ダイバーシティ推進室では、取組を推進していくにあたり、ダイバーシティに関する皆様の意識についてアンケートを実施しております。皆様からいただいた回答は毎年分析して学会・専門誌などに発表をするために利用いたします。今年度もご回答いただきましてありがとうございました。今年度も集計が終わりましたら、ダイバーシティ推進室HPにて公表いたしますのでぜひご覧ください。

過去のアンケート
集計結果はこちら



福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別・立場に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、かつ、仕事と生活の調和を実現することを目指しております。

福島県立医科大学 ダイバーシティ推進室

室長 前島 裕子

E-mail: gendeqsp@fmu.ac.jp/Tel: 024-547-1657(内線: 2807)

ダイバーシティ
推進室HPへ

